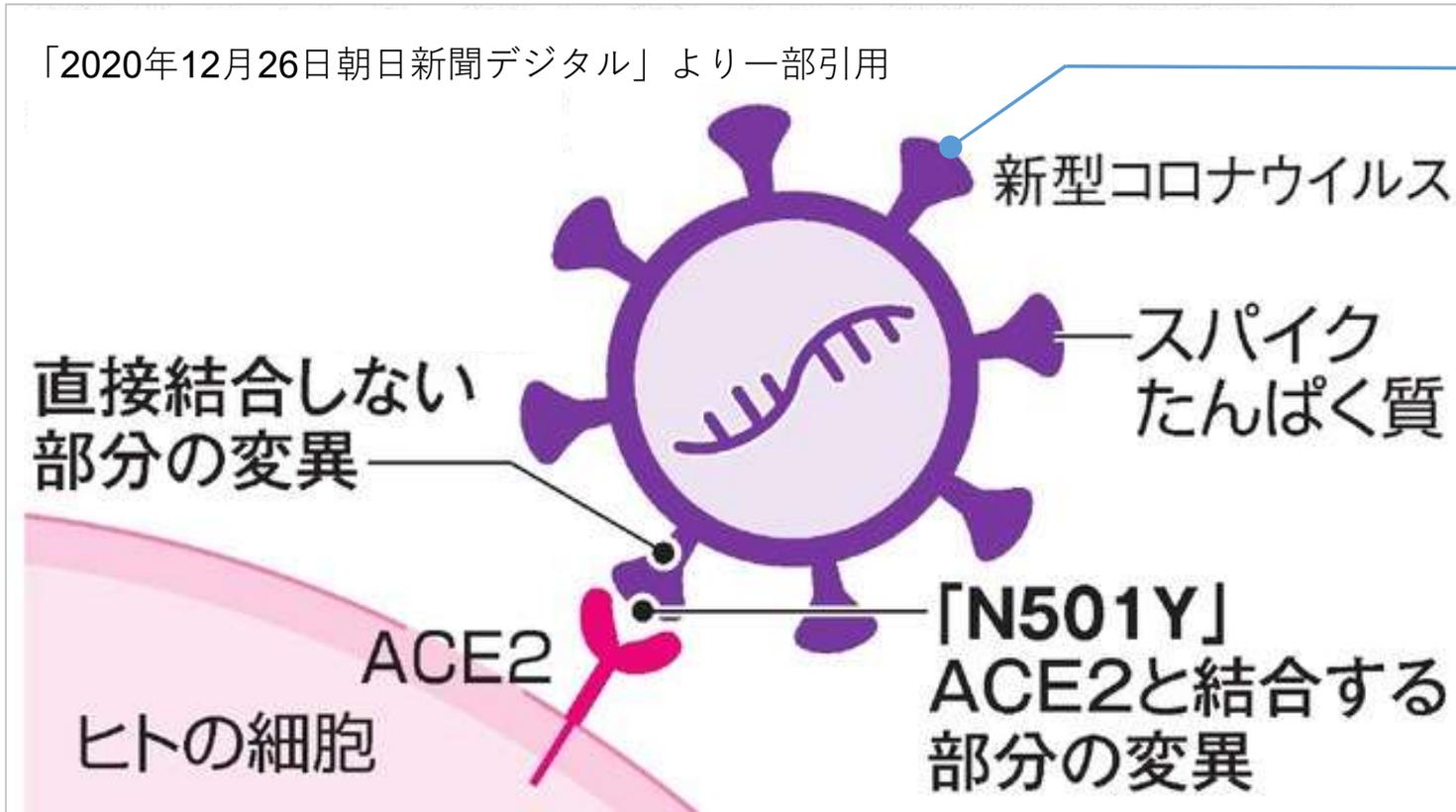


神戸市における 変異株サーベイランスの状況

2021年3月1日 市長臨時会見

感染する仕組みと変異の特徴

「2020年12月26日朝日新聞デジタル」より一部引用



中和抗体

E484K変異

南ア・ブラジル型のみ
抗原性が変化し免疫
効果の低下が懸念
(一部の英国型も保有)

英国・南ア・ブラジル型に共通

感染・伝播性の増加
が懸念

より効率よくヒトの
細胞内に侵入できる

新型コロナウイルスの変異株

① 英国型(N501Y変異)

スパイクタンパク質の501番目のアミノ酸がチロシンに置換(N501Y変異)。感染力の増加が懸念されている。

② 南アフリカ型とブラジル型(N501Y変異 + E484K変異)

N501Y変異に加えて、484番目のアミノ酸がリジンに置換した変異(E484K変異)を持つ。感染力の増加と免疫効果への影響が懸念される。

③ 新たな変異株(E484K変異のみ)

N501Y変異を持たずE484K変異のみを持つ新たな変異株が国立感染症研究所から報告された。海外から移入したとみられるが起源は不明。

変異株疑いの確認について

1月22日

国立感染症研究所で開発された変異株疑いを確認するためのPCR検査法が全国の地方衛生研究所に伝えられた。



2月5日

国は、管内の全陽性者数の約5-10%分の検体（週）を目途に、変異株の疑いを確認するためのPCR検査の実施を要請。



神戸市では、変異株感染患者の早期探知と徹底した積極的疫学調査による感染拡大防止に取り組むための変異株監視体制を整えた。

神戸市所管の全新規陽性者の検体のうち約60%を実施

神戸市環境保健研究所における変異株監視体制

新型コロナPCR陽性検体

変異株疑いのためのPCR検査
N501Y変異(①②)を検出する

数時間

陽性

陰性

1~2週間分の検体をプールする

ゲノム解析

ゲノム解析

2日程度

他都市では国立感染症研究所で
確認するため5日~1週間が必要

国立感染症研究所でデータ確認
変異株確定

(英国、南ア、ブラジル型が決定)

- ・ゲノム疫学による地域内感染状況把握
- ・新たな変異株への監視(変異株③)

神戸市内の変異株確認状況

検体採取日	市内新規陽性者数	変異株検査数	市内陽性者に占める検査数割合	変異株確認数	検査数に占める変異株の割合
・ N501Y変異（変異株①・② ※）					
1月1日-1月28日	1,962	677	34.5%	0	0.0%
1月29日-2月4日	317	173	54.6%	8	4.6%
2月5日-2月11日	175	105	60.0%	11	10.5%
2月12日-2月18日	122	79	64.8%	12	15.2%
・ E484K変異（変異株③）					
				5	
神戸市内 計				36	

※ これまでの神戸市内のすべてのN501Y変異株は英国型。

（空港検疫関連の陽性者は計上せず。変異検査数には陰性確認を含めず。）

感染再拡大(リバウンド)予防のための対策

変異株の影響の拡大を見据え、政府の分科会提言も踏まえた
サーベイランス体制の強化

- ① 隠れた感染源を早期に確認するための「**積極的疫学調査**」
- ② 「**高齢者・障害者入所施設の直接処遇職員に対する定期的な検査**」
- ③ 感染者が確認された高齢者・障害者入所施設の
「**入所者・直接処遇従事者全員の検査**」
- ④ 感染リスクが高い集団・場所の、無症状者に焦点を当てた
「**モニタリング検査**」

感染再拡大(リバウンド)予防のためのお願い

変異株に対する個人の基本的な感染予防策はこれまでと同じ
「三つの密」の回避、マスクの着用、手洗いの徹底を

特に、

大人数での会食は控える、少人数の食事でも会話を控え距離をとる

- ・ 真正面を避け、斜め向かいに離れて座る
- ・ 横並びや真正面に座る際は、1メートル以上の距離をとる
- ・ 同居家族以外では会食の参加者を「いつも近くにいる4人まで」
- ・ 食事の際は、深酒・大声を避けて短時間で済ませる。

年度末年度始めに向けて、卒業旅行、謝恩会、歓送迎会は控え、
花見は宴会抜きで